

## 質問票集約結果に関するメモや気づき点

2025/5/31 山本章夫

## Q1, Q2：安全目標の定義、二面性のうち規制・事業者の改善にフォーカス

- ・安全目標の捉え方自体には委員間に大差なし。「二面性」については共通の理解あり。ただし、二面性のどちらに重点を置くかにはばらつきあり。
- ・現実的に進むと考えられる議論からスタートしても良いという考え方、そうではなく、前提条件やあるべき論をしっかり議論すべきという意見が混在。
- ・入り口論でこれまで20年近く議論してきたことを考えると、現実的に進むと想定出来る議論からスタートすることに個人的には賛同。(マージナルゲインの考え方で)

## Q3：過剰規制、継続的安全性向上との関係

- ・ALARP との関係の整理と共通理解の醸成が必要。
- ・マネジメントシステム(継続的な改善)の中で、どのように安全目標を参照するか。

## Q4：BSL と BSO の提示

- ・テクニカルな観点からは、両方提示について、支持が多数。
- ・BSO の提示について、法律のあるいは、社会の理解的な観点から懸念が表明されていることは重要。(安全目標は、BSO に関わる議論との理解のため)。
- ・言い換えると、limit と goal の違いを意識できる文化かどうか、とも言えるかも。ただし、これが議論になると答えが出ない可能性あり。

## Q5：BSL の意味

- ・規制基準と BSL の関係の整理。
- ・規制基準=BSL と考えるなら、BSL の設定は不要との意見あり。

## Q6:BSO の意味

- ・そもそも BSO が認められるかどうかという意見は重要。
- ・認められたとしても「プロ/専門家向け」になるとの意見あり。とすれば、社会との約束には使えないことになる。

## Q7：リスクレベルのわずかな増加の許容

- ・テクニカルには賛同の意見多数。
- ・ $\Delta$ CDF/CFF のみを用いるのではないという点についての理解は、共通になっている。
- ・事業者/規制に実際に実施出来る能力があるかどうか、との意見あり。

Q8：防護の最適化の扱い

- ・防護の最適化を安全目標に取り込むべきという意見が多数
- ・個人的には、安全目標と防護の最適化(あるいは ALARP)をどのように両立させるのかイメージが出来ていない。

Q9：環境影響

- ・考慮すべきという意見で一致。
- ・具体的な方法論については難しいという共通理解あり。

Q10：災害関連死

- ・考慮すべきという意見が多いが、責任分界点、発生メカニズムなどの観点から安全目標で考慮することは困難との意見あり。
- ・どのように考慮すべきか、その議論が難しいことについては共通理解あり。

Q11：倫理的に許されない被害

- ・そのような被害があるとの意見が大半。
- ・確率が低い場合は無視できるとの意見も。
- ・具体的にどのような被害が「許容されない被害」に相当するかについての議論は難しいとの共通理解あり。

Q12：不平等

- ・不平等が存在するという点については、見解は一致。
- ・対応方法については、補償、行政手段など様々な意見あり。

Q13：突出した被害を受ける個人

- ・このような個人が存在してはならないとの意見で一致。
- ・ただし、安全目標でどのように考慮できるか、については、具現化は難しいのではないかとの意見あり。
- ・安全目標では、心構えとしてこの点について言及すべきとの意見も。

Q14：巨大噴火の考慮

- ・巨大噴火などが与えるリスクについては、安全目標の議論において一旦留保して良いとの意見で一致。
- ・ただし、その根拠については様々であり、整理が必要と思われる。

Q15：人的事象の考慮

- ・考慮すべき、留保すべきとの意見が混在。
- ・考慮すべき場合でも、一般的な確率(CDFなど)で考慮するのは難しいのではとの意見あり。

Q16：時代に応じた安全目標のアップデート

- ・必要との意見で一致。
- ・これ自体が継続的安全性向上の一部との意見あり。

Q17：通常運転時のリスク

- ・明確に安全目標に位置づけるべきと言う意見は少数

Q18：原子力発電所以外への安全目標の適用

- ・幅広く考えるべきとの意見あり。
- ・一方、まずは原子力発電所の議論がかみ合ってから他の施設を考えるべきとの意見あり。
- ・性能目標は施設依存。

Q19：相対値か絶対値か

- ・相対値で良いとの意見が多数。
- ・現状では、相対値と絶対値に大きな違いはない、相対値は恣意的に操作しやすい等の意見あり。

Q22：評価の不確かさ

- ・そもそも、評価の不確かさ、についての概念についての共通理解が醸成されていない状態と見受けられる。
- ・かみ合った議論ができる状態にはないように思われる。